



冬の足音とともに

以前この欄でも取り上げた2頭のベンガルトラ。訳あって別居生活だった2頭がいよいよ同居、とお伝えしましたがそれから約3カ月、ぎこちない関係だった2頭はついに交尾に成功しました。平成23年11月19日が最初に交尾が確認された日です。その日私は休みだったのですが、担当飼育員から弾んだ声で電話がありました。

余談ですが、休みの日にかかってくる電話で吉報のものはまずありません。動物の具合が悪い、動物が死んだ、動物が逃げた（簡単に書いてますが実際にありました、小動物ですが）、お客さんとトラぶった、ヘビにかまれたなどなど。ですから一瞬身構えますが、こういう知らせは、「悪い知らせじゃなくて良かった」というのがまず率直な感想であり同時に喜ばしくもおめでたい気持ちになります。もちろんまだ身ごもったかどうかはわからない段階ではありますが。しかし、別居が長かった2頭だけに同居から約3カ月で交尾できたことにまずは一安心といったところです。



仲睦まじくなった2頭：上がメスのサワ、下がアキラ

園内もいよいよ晩秋から冬の装いに。恒例のサンタクロースも園内のあちこちに出没しています。二ホンザルも冬恒例のサル団子が始まりました。

そんな冬の到来とともに悲しい知らせが。平成23年に生まれたヤクシカのイマニシくんとフサオマキザルのヒロシくんが相次いで亡くなってしまいました。先週後半から急に寒さがつづりましたが、この急激な気温変化に小っちゃい動物たちは体がついていかなかったのでしょうか。詳しくは別の欄で担当の飼育員から皆様にお伝えすると思いますが、人工哺育で育ち見事群れに帰れたイマニシくんはまだ生後4カ月半、親子3人で暮らしていたヒロシくんは11月末に1歳の誕生日を迎えたばかりでした。動物園にとって、動物たちの死ほど悲しいことはありませんが、幼齢の子たちはなおさらです。解剖したところ、イマニシくんは胃からの出血が認められたとのこと。以下は私の勝手な推測ですが、エゾシカなどと違って、南方系のヤクシカには急激な寒さの到来がストレスとなったのでしょうか。

またヒロシくんは風邪の症状が出ていたらしいのですが、解剖所見では目立ったところは認められなかったようです。平成22年の冬は、生まれて間もないのでまだ親の免疫機能が働いていたのかもしれませんが、今年は始めて自分自身で乗りこえる冬となったところに風邪をひきこじらせてしまったのかもしれませんが。いずれにしても短い間の生涯でしたが、多く



やってきたサンタさん



みんなで暖ったまろう



可愛かったイマニシくん

のお客様に可愛いがられ、また小さなお子さんたちを癒してあげられたのではないしょうか。

動物の生と死。喜びと悲しみ。動物園に常について回る問題ですが、それは人生の縮図でもあります。



ありがとうヒロシくん

こちらのサイトもどうぞ（連載中）：[どうぶつのに](#)（新しいウインドウが開きます）

（平成23年12月7日）

2011年12月7日
